

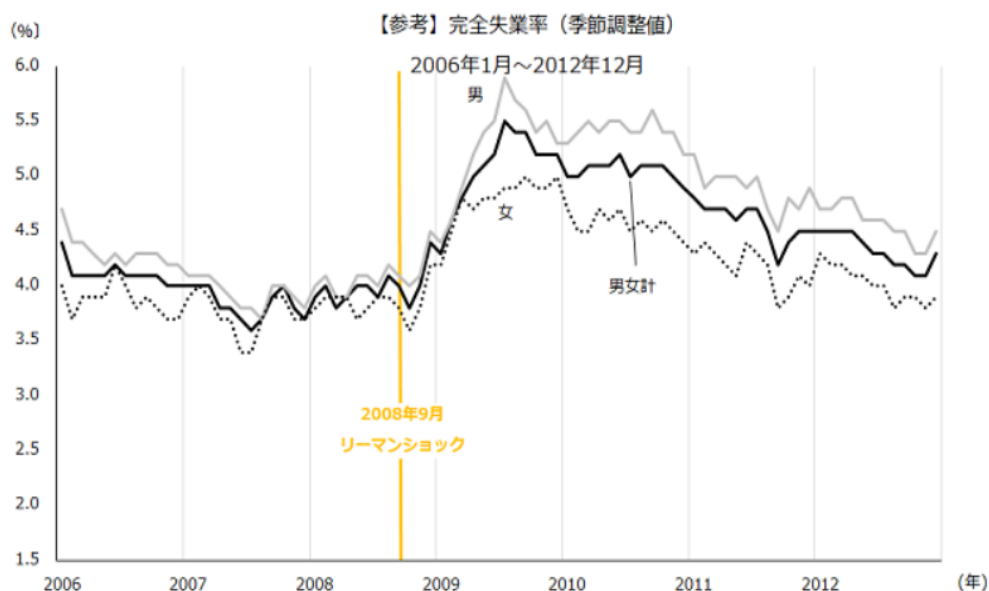
令和 2 年 10 月 05 日

< ワンポイント・レッスン（実践） > （リーマン・ショック前後の完全失業率）

10 月 2 日に 8 月の雇用統計が発表されました。完全失業率は、3.0%。有効求人倍率は 0.4 ポイント低下して 1.04 倍でした。これに対してリーマン・ショック時の完全失業率は、08 年 10 月の 3.8%が最低、その後 09 年 7 月は 5.5%に上昇。ちなみに、3.8%を下回るのはアベノミクスを待つこととなります。今回、新型コロナショック前、2019 年 12 月の完全失業率は、2.2%、ベースとなる水準が異なります。加えてリーマン・ショック時は、金融と産業が大きく痛みましたが、今回は、国内移動、海外移動を含めて人の動線の制約。そして「密」、健康にかかわるものなので、心理的な負担が大きく影響しているのが異なります。時間が経てば経つほどダメージが大きい。短期に回復して、今回勤め先や事業の都合で職を離れた人が多くを占めた失業者が、早く職に復帰できることを期待したいところです。新型コロナショックからの回復度をみるのに、観光統計と雇用統計に注目しています。観光は、GO TO トラベルで盛り上がって来ましたが、終わった後の消費マインドに注目です。

【参考】リーマンショック前後の動向（2006年～2012年）

Ⅰ 完全失業率（季節調整値）



資料出所 総務省統計局「労働力調査（基本集計）」

（独立行政法人労働政策研究・研修機構のホームページより）